

課題と方向性

課 題	方 向 性
<p>超長期的に人口減少に向かう国土の中での人と自然の関係について、生物多様性保全の観点からより望ましい状況を目指すこと。</p>	<p>○奥山自然地域については、国土の生態系ネットワークの核としての十分なまとまりがそれぞれの地域の生物多様性の特性に応じて確保されるよう、各種の保護地域制度を活用しつつ保護管理を充実。</p> <p>○里地里山地域については、人口減少・高齢化の進展等により奥山自然地域と都市地域の間地域としての幅が相対的に広がって行くと考えられることから、自然の遷移に委ねる地域と人手をかけて積極的に維持管理していくべき地域との仕分けを行うこと、農林業の振興や消費拡大等を通じて里地里山の保全管理の担い手としての農山村の活性化を図ること、人と野生鳥獣とのほどよい間合いを確保することなどを総合的に検討。</p> <p>○都市地域については、市街地の縮小・人口減少に対応して、森とも呼べる大規模な緑の空間の創出を含めた水と緑の計画的な確保を推進。</p> <p>○浅海・海洋域については、砂浜などの自然海岸や浅海域の保全・再生の強化、漁業との両立を通じた海洋生態系の保全等を推進。</p> <p>○なお、温暖化も含めた環境条件の長期的な変化にも対応できるよう、また、上記それぞれの地域相互のつながりを確保できるよう、国土レベルの生態系ネットワークの構築を着実に進めることが重要。</p>